

# 残りの者 シャーアル

石巻祈りの家NEWS LETTER 「シャーアル」 (136号)  
986-0801 宮城県石巻市水明北3丁目13番28号  
TEL /0225-96-1497 Email/ hjm-ja2@yg8.so-net.ne.jp  
振替口座 02290-6-126186 口座名称 阿部 一  
●代表/阿部 一 ●副代表/菊池せい子



## 信仰：新しきと古きの二つの戦い

- 6月末から寒暖の差が大きく、高齢者にはその変化について行くのが大変です。そして、山形県沖大地震に続いて、再び九州地方で大雨による被害が出ております。主の守りを祈っております。皆さまにはお変わりございませんか？
- ハーベスト・タイムの中川健一師の「ローマ人への手紙」の講解メッセージをテープに録音し、そこから文字起こしを始めたら、その深い説き明かしにすっかりはまってしまい、何も手がつかない状態になっています。月報も遅れてしまいました。
- 1回分1時間余のメッセージを文字起こしするには集中しても2日はかかります。全59回、現在48回目に挑戦中です。1つの言語を日本語に訳す時には、その正しい訳のために、時代背景を配慮しながら、新改訳・口語訳・新共同訳を対比し、訳す日本語の限界を踏まえ、ギリシャ語まで遡っての深い意味の説き明かしはまさに「目からうろこ」の経験です。
- 神の一方的な恵みにより信仰によって神との関係で「義」と認められた私たちクリスチヤンは、完全にキリストに似る者とされるとの約束に従って「聖化」の道を歩んでいます。
- その「聖化の道」は、キリストにあって与えられた「新しい性質」と生まれながら自己中心の「古き性質」との戦いの道を歩んでいるということです。
- 神を知る前は、全ての行動の基準は「自分の思い」で、一貫性がなく、それが自分の心の戦いの原因でした。しかし、キリストの愛によって人生の目標と日々の歩みでの選ぶべき道が示されて、信仰を持って導かれて歩む新しい生活へと変えられました。
- 信仰を持てば、全てがハッピーではありません。キリストに倣って歩む生活が、以前は何の考えもなしに行動していたものが、心が敏感となり、神の喜ばれる道はどうぞかを考えるからです。それは、まさに「新しい性質」と「古き性質」の戦いです。
- しかし、「聖化の道」を歩む、今は決していつも勝利の生活ではありません。「古き性質」に敗れて、悔い改めることも多いのです。その時、クリスチヤンは神の恵みに立ち返り、頂いた神からの「愛」の深さ、広さ、高さを思い起こし、悔い改めと感謝を持って、キリストの道に戻り、新しくキリストの声を聞きながら歩み直すのです。
- その導き手なるキリストの声を聞くためには、私たちは父なる神の御旨を目に入れる形でこの世を歩まれたキリストの姿、そして神の御思いが記されている「聖書」を信仰を持って、日々学び、聖霊の導きに従うことです。
- この6/22で79才になりました。聖書を通してキリストに出会ったあの若き日を思い起こし、新しい感謝と、この年まで忍耐を持って支え、導いて来られた神の恵みに応えることを改めて願い、祈りながらこの月の一歩を踏み出しました。

### ■先月の多くの恵みから

- ① 6/30の礼拝は私たちの群のメンター森谷正志師が礼拝と聖餐式のご奉仕をして下さいました。先生はこの3月に仙台バプテスト神学校長を辞され、C-BTE Japan代表として、また牧会メンターとして奉仕を続けられます。
- ② 6/18夜の山形県沖大地震(震度6)で多くのクリスチヤン友人がおり、心配しましたが皆さんに神の守りがあったということで感謝しました。
- ③ 石巻出身で、聖書や信仰に基づき深い精神性をもつコンテンポラリー絵画を描き、様々な信仰書や教会関係の雑誌

等の表紙や挿絵に採用されている渡辺総一さんの絵画展を、故郷石巻で開催し石巻市民にその作品を見てもらいたいというビジョンが与えられて、そのための準備を始めています。必要な資金や協力者が与えられるようにお祈り下さい。

- ③ 毎月1回、石巻栄光キリスト教会川上直哉牧師（東北ヘルプ事務局長）のご指導で市内4教会合同の主題「赦しについて」の学び会が続けられて、様々な視点から深い学びをさせて頂いています。
- ④ 7/8-9にサン錦秋湖で開催される「第52回東北教役者会」に参加する予定です。良き学びと交わりができるようにと願っています。
- ⑤ 特養介護ホーム入居者の佐藤 隆さんを毎週水曜日午後に訪問し、祈りと賛美、みことばの学びを続けています。
- ⑥ 8/4に酒田ルーテル同胞教会の宣教70周年記念礼拝で、私たちがお世話になった頃の話と証しを依頼され出かけます。
- ⑦ 6月も、多くの兄姉や教会から季節の果物や野菜、山菜、お菓子、献金、切手によって教会活動が支えられ心から感謝します。また、メイル、電話、ハガキやニュースレターでの励ましも有り難うございます。

### ■今月も以下の課題を祈って頂けるようにお願いします

①今野かつ子さん/新井勝太・李恵子夫妻/神保秀紀兄/鈴木手以師の治療のために。②石巻地区の各教会の働きのため。地域より求道者が起こされるように。③大平英秀さん/佐藤 隆さんのために。④九州の被災者のために。⑤ 石巻ミニストリーネットワークの働きのために。⑥ 渡辺総一絵画展の実現のために。

### 群の定期集会

・礼拝（毎週日曜日）	10:00-11:30
・祈り会（毎週水曜日）	10:00-11:30
・聖書を読む会（第1火曜日）	10:30-12:00
・ほっと・Time（第3火曜日）	10:30-12:00
・コーラス「花」（第2,4木曜日）	13:30-15:00
・楽しい手芸（第2,4月曜日）	10:00-12:00
・学習支援（地域の子どもの要望に応えて）	

### 信仰を詠う

#### 7月 早苗月

ういきょう  
茴香を掘り起す、なお底深く  
いくばく

幾何の信と香を届けむと

巻爪が鈍痛と経て覚悟消え

沈丁花裂け明日呼ぶ芳香

デコポンがずらりと並ぶ売り場行く

世辞うまき言、甘く掠める



阿部 八重子

田植え、庭の手入れ、花、果実の香りと匂ひ、そして身体の変化、息吹きの五月です  
一いつも喜んでいなさい、絶えず祈りなさい、全てのことに感謝しなさい  
第一テサロニケ5-16-18

# 2019/5月末～2019/6月末までの教会活動の情報と地区教会活動との関わり



5/31希望の家concert/由美子さんと 6/2 KYさん礼拝に 6/8松並公園で千葉さんとベンチ 6/8 雨で祈り会がオアシス教会で 6/13今年も姉持兄より枇杷が



楽しい手芸の会の可愛いブローチ作品 6/30メンター森谷師の礼拝奉仕 6/4 聖書を読む会での話し合い 6/27 IMNで帰国Andyに感謝 6/22 79になりました！

## アドナイ・イルエ

「アドナイ・イルエ」=主の山に備え在り

### 祈り続けてくれた石巻の兄姉を訪ねて

### 天に帰った妹の遺影を抱いて

シャカイナ・クリスチャン・フェローシップ 小林和子

5/14-20、ずっと行きたかった石巻に、3/8に天に帰っていった妹の写真も一緒に連れて、母とともにに行ってきました。長野⇒石巻、ずっと高速の往復だけで1,100キロ超え。私の愛車『軽』のアルト!!で行つきました。

石巻とのかかわりを思い出すと、2011.3.11東日本大震災の被災地に、私たちの教会のグリニス、ジュディス二人の宣教師が、支援物資や献金を携えて、訪れたことが始まりでした。彼女たちは避難所で、まず松川とも子さん、眞一郎さんご夫妻と知り合いになり、また、「祈りの家」と、「阿部一さん」という方の名前をたくさん聞き、そこをお訪ねして支援を始めました。

私も被災地へ行って少しでもお助けしたいと思いましたが、家庭の事情が許さず、できることは祈ることと献金することだけでした。でも神さまは、私にできることを示し、導いてくださいました。「忘れないません」「祈っています」という気持ちを届けることが与えられたのです。宣教師たちの話を聞き、松川とも子さんに最初にお便りしたのが、2011.6.27。それから月報「シャーアル」が届くようになった祈りの家に、教会として手紙を書いてほしいと2014.10.18に宣教師より頼まれました。そして、末永さんに最初に手紙を書いたのは、毎月届くシャーアルの記事の中で、彼の証しがとても心に迫ったためでした。励ましたいと思っている人間が安曇野にいることをどうしても伝えたくて、祈りの家を通して、末永さんに渡してほしいと手紙を書いたのが2015.3.1でした。

毎月シャーアルを読んで、祈りの家や石巻の様子がだんだんわかってきました。安曇野にいても遠い石巻が少しずつ近くなり、手紙を書くごとに、私の心の中でどんどん石巻が大きくなっていました。そして、「いつか必ず石巻の皆さんにお会いに行きたい」という願いを持つようになりました。

さて、昨年2月のことです。私の妹の二平幸子にすい臓ガンが見つかり、3月に手術をしました。すい臓ガンは、生存率の極めて低いガンです。でも、その数パーセントの生存者の中には必ず妹が入ることを信じて、術後、妹は抗がん剤治療を始めました。再発を抑えるためです。

私は、イエスさまの癒しの御手が妹の上に置かれることを願い、信じ、祈りました。そして何より、妹のたましいの救いを祈りました。

抗がん剤治療は、4週間の薬の服用と2週間の薬の休止を1クールとし、それを4クール続けるのが「標準治療」と言われました。それは、副作用の状況も見ながら、薬の量や種類を変えていくと

いうものでした。抗がん剤は ガンに対して攻撃し、やっつけますが、同時に正常な健康である細胞をも攻撃します。術後は元だった妹も、抗がん剤治療の回を重ねるたびに、副作用に苦しみ、弱っていました。

私は自分の教会だけでなく、少しでも知っているクリスチャンがいれば、なりふり構わず、妹の癒しのために、お祈りをお願いしました。そんなわけで、祈りの家の皆さんにも、幸子のために祈つてほしいとお願いした次第です。

「二平幸子」の名前が、シャーアルの祈りの課題に掲載されました。祈りの家のメンバーの家族でもないのに、シャーアルの祈りの課題には、毎月のように「二平幸子さんの癒しのために」と、掲載され続けたのです。私はこのことで本当に励されました。「名前を挙げて祈ってるよ」と、お電話もいただきました。遠く離れた安曇野の、顔も見たことのない一姉妹の祈りのリクエストのために、「祈りの家」の皆さんは忠実に祈り続けてくださったのです。神さま、ありがとうございます！感謝します！このように距離を越えても、教会を越えても、祈ってくれる神の家族がいることを。しかし、妹はガンが再発し、副作用と体調の悪化で抗がん剤治療を完結できずに、入退院を数回繰り返しました。今年1月、癌治療を終わりにし、痛みを取り、地上でのよい時間を過ごすための「緩和ケア」に方針が変えられました。家で過ごしたいと願う妹のために、介護保険でベッドを入れ、ヘルパーさんを頼み、訪問看護と往診を組み合わせ、私も寝泊まりで妹に付き添い、妹は約一ヶ月を家で過ごしました。最期は自ら望んで病院に入院し、家族全員と親戚にお別れを言い、静かに地上での生涯を閉じました。祈りは聞かれなかつたのでしょうか？いいえ、神さまは聞いてくださいました。永遠の視点で、神さまの視点で、豊かに応えてくださいました。教会では信仰によって、妹の靈をイエスさまのもとに連れて行きました。（マルコ2:3～5）信仰によって屋根から吊り下げた友人と同様に、私たち家族も妹を神に執り成しました。枕もとで、

「あなたの場所が天国に用意されているよ。イエスさまが待っているよ。」と伝えると、妹は目を開き、天井を見つめて何かを追いかけているようでした。時々ニコニ笑うのです。「ああ、今天使が来ている。イエスさまが妹に語りかけている」と思い、口での告白は聞くことができなかつたけれど（すでに話すことができなくなっていました）、妹はイエスさまと一緒に天に帰つていったのだと信じています。

妹の葬儀はちょうど3月11日で、震災8年のメモリアルの日でした。葬儀が終わった日、泣いている母をひとりにはしておけなくて、ホテルに部屋を取り一緒に泊まりました。ちょうどニュースを見ていたときでした。その時、私は、（「今日はメモリアルだったんだなあ。そのこと、思うこともできなかつたなあ。幸子のお別れの日と、震災メモリアルの日は同じ日だったんだ。なんだか不思議だなあ。今年、石巻に行こう！祈ってくださっていた皆さんに会いたい。御礼を述べたい。お母さんと一緒に連れて行きたい。今！今、行かなくちや！今年行かなくちや！」）と心に迫るものがあつて、秘かに石巻訪問を決めたのです。